

元学生には、頼り存在かな？

先日、私が勤めて間のない頃出入りしてくれた元学生（出入りしてくれた元学生の第一号：今はある国立大学の教授）が、ある学会への出席の途中わざわざ仙台に立ち寄り、元学生（在仙の国立大学の教授）共々、リタイヤした私を見舞う（？）ために時間を作ってくれたようである。しかも誰の影響か、その後も重症児の教育問題に取り組み、30数年の間にそれぞれの研究分野で全国の若手研究者をリードする立場を築いている。（そうしたその道の大家（？）なのに、30数年前と同様に、ついついあれこれコメントした自分の失礼さをここでお詫びする）。他にも国立大学の教壇に立っている元学生もいて、数えてみると計5人もいる（彼らには、私はメ - ル等で頼り先輩かもね）。

私は研究という側面では何も出来なかったし、彼らにアドバイス出来なかったが、振り返れば、こうした元学生が次々と出入りしてくれたことが、私の現場一筋35年を陰で支えてくれていたのだろうなあとつくづく感じ、改めて感謝している。もちろん、学生との出会いの機会を作ってくれたのは重症児であり、重症児の凄いパワーとその存在感を改めて感じ、感謝している。

さて、先の先生は、リタイヤした雰囲気のない私を見て、当然と思ったか、拍子抜けしたか…。私のHPも時々覗いてくれているようで「阿部塾を続けてください」と評してくださった。私は手前勝手（？）な人間だけに、こうした励まし（？）を耳にすると俄然勇気を得る単純なところあり！

また後日のメ - ルに「ますます意気軒昂なご様子に圧倒されました」とあった。私は手前勝手（？）な人間だけに、こうした励まし（？）を耳にすると俄然勇気を得る単純なところあり！またまた、厚かましく発信し続けるかもね。

（2002年12月30日 記）